

就労支援サービスの支援力向上のための研修

一般社団法人 サステイナブル・サポート

〒500-8175 岐阜県岐阜市長住町2丁目7番地アーバンフロントビル3階

助成事業の概要

精神障害者・発達障害者の就労支援に従事する事業所の職員が、支援技術向上、業務関連知識向上、周辺領域知識向上を目標、支援に活かすことを目的として、月一回（年12回）開催した。

2020年

5月：パラレルキャリア（営業コンサルタント 宮本聡氏）

5月：発達障害のストレス対処（いかわクリニック院長 井川典克氏）

6月：WEB就活のポイント（㈱キャリアル 大森富士代氏）

7月：ホームレス、ひきこもり、途上国の視点から（岐阜大学 西尾彰泰氏）

9月：TRPG（東京学芸大学 加藤浩平氏）

10月：不登校・フリースクールについて（人と学ぶ場ふらっと 加藤隆史氏）

11月：社会的養護（吉田栄紀氏）

12月：依存症について（岐阜ダルク 遠山香氏）

2021年

1月：ファンドレイジング入門（ファンドレイジング協会 宮下真美氏）

1月：支援力向上のためのチームアップ研修（㈱風とつばさ 水谷衣里氏）

2月：地域における若者・困難者支援（NPO法人仕事工房ポポロ 中川健史氏）

3月：【地域住民向け研修】「もう死にたいです」って言われたら？（岐阜大学 堀田亮氏・精神保健福祉士 内木勝治氏）

事業の成果

一般社団法人サステイナブル・サポートは設立して6年目となった。設立当時は「就労移行支援事業所」のみの活動だったが、「学生・若者支援事業」「就労継続支援B型事業所」「ダイバーシティ啓発イベントの開催」等、活動の幅を広げている。活動を広げるといえることは、それだけ多くの支援対象者がおり、対象者の抱える困難さも多岐にわたるといえることである。特に、2020年から、本人が生来抱えている障害特性や生きづらさに加え、新型コロナウイルスの流行という外部的要因が大きく関わるようになった。

そんな中、令和2年度は、新型コロナウイルスによる影響を鑑みた研修を執り行った。例えば、外部環境の変化への対処が苦手とされる発達障害者の支援に向けた「発達障害者のストレス対処」や、就職活動の方法の変化に対応すべく行った「WEB就活のポイント」等が挙げられる。また、社会情勢の悪化により今後増加されることも見込まれる「依存症」や「ホームレス」に関して等、今年度だけでなく、数年後単位での先を見据えた研修も行った。

また、3月に行った地域支援者向け研修は、他の支援機関や地域住民にも開けた研修とし、「もう死にたいですって言われたら？～心理的に追い詰められている人への支援を学ぼう～」をテーマに開講した（オンライン開催 / 参加者約40名）。2020年の日本の自殺者数は2万919人であり、11年ぶりの前年比増だった。特に若者や女性の自殺者数の増加が目立ち、新型コロナウイルスに

よる生活の変化などが背景にあるといわれている。このように、生きづらさが膨れ上がる現代社会において、支援者は、死にたいくらい悩んでいる人に対し、どんな支援ができるのか。どうしたら死にたいほどのつらさから救うことができるのか、という、非常に重大なテーマに対し、法人の職員に限らず、より多くの支援者に研修の機会を届けられたことは、大きな意義があったと感じている。当団体が運営している就労移行支援事業所ノックス岐阜では、このような社会情勢にも関わらず、9名の就職者を輩出することができた。また、他の活動でも、利用者（支援対象者）の数は増加の一途であり、研修の成果による支援の幅、質の拡大を実感している。

■ 成果の広報・公表

当団体が発行する会報誌「SS JOURNAL」のトップ記事に職員研修の活動について取り上げ、拡散した。当会報誌は郵送分、メールマガジン分、SNS掲載分を含めると、読者は約800名おり、当団体が職員研修を重視している理由、意義を広く広報することができた。

また、令和元年度に引き続き、職員向け研修を行っていることや、内容、効果等を、法人代表理事のSNS (Facebook) で随時公開した。これだけでも、毎回約400人に活動を公表する機となった。

さらに、(新型コロナウイルスの影響も鑑みた結果)、地域住民向け研修はオンラインでの開催としたため、オフライン開催では参加が見込めなかった、遠方からの参加者もあり、地域だけに限らず、より幅広い層に情報を届けることができた。

今後は、年間の研修を通じた報告集を作成、印刷、また電子ファイル (PDF) も発行し、当団体の各事業部署に設置するとともに、地域の支援団体に配布していきたいと考えている。

■ 今後の展開

令和元年度、2年度に限らず、今後も社会情勢が大きく変化していくことが予想される。当団体が主に支援している精神障害者・発達障害者は、外部環境の変化が不得手な方が多く、また、メンタル面の安定が難しい方も多くいる。しかし、そのような状態、情勢であっても、「働きたい」という意思を強く持ち、事業所に通所されている。

企業の解雇率が上昇し、求人数は減少し、障害者就労に関しては逆風が吹いている状況ではあるが、私たち支援者はそこに言い訳をすることはならず、就労および定着には、より支援者の技量が求められるようになってきている。支援者は自己の知識、支援力を常に向上させ続けることが重要であり、職員研修を行うことは、「支援力向上」に最もつながりやすい重大な機会である。

継続して職員研修を行うことで、支援技術、業務関連知識が向上し、より複雑な問題に対しても対応が可能となり、より多くの、そして多岐に渡る「生きづらさ」を支援することができると感じている。

令和2年度からは、職員研修を行った後に、参加した職員全員が「感想文」を執筆することとしており、知識として学んだことをより深く落とし込めるようにしていた。今後も研修を継続し、知識・技術を吸収し、支援の糧とできるようにしたい。